

文教福祉常任委員会所管事務調査報告書

1 日 程 令和6年5月13日（月）～15日（水）

2 調査地及び調査項目

(1) 兵庫県加東市

加東市立東条学園小中学校（義務教育学校）について

(2) 兵庫県加古川市

見守りサービスについて

(3) 静岡県島田市

島田市こども館について

3 出席者

委員：福森 真司、間地 薫、石川 潤、桑原 昌之、中村 知也、

川口 薫、小菅 基司、横溝 泰世

議会局：松永 尚之、橋本 茜

○兵庫県加東市（5月13日）

1 あいさつ

- (1) 加東市議会 高瀬 俊介 議長
- (2) 東条学園小中学校 尾崎 高弘 校長
- (3) 秦野市議会文教福祉常任委員会 福森 真司 委員長
- (4) 秦野市議会文教福祉常任委員会 間地 薫 副委員長

2 調査項目

- (1) 加東市立東条学園小中学校（義務教育学校）について

説明者 こども未来部 藤原 路寛 参事

小中一貫教育推進室 丸山 真矢 室長

〃 原 英孝 係長

〃 宇高 健太 主査

〃 柴崎 俊之 主査

東条学園小中学校 尾崎 高弘 校長

〃 大畑 賢志 教頭

〃 中山 庸平 教頭

ア 事業概要

- ・加東市内には、現在、小学校7校、中学校2校、義務教育学校1校がある。
- ・東条学園小中学校は、旧東条東小学校と旧東条学園西小学校、旧東条中学校の3校が合併し、令和3年度に開校。令和6年4月時点の児童・生徒数は544名。
- ・通常の中学3年生にあたる9年生までの9学年が同じ校舎で生活していて、第Ⅰステージ（1年生～4年生）、第Ⅱステージ（5年生～7年生）、第Ⅲステージ（8年生・9年生）と3ステージに分けている。
- ・各ステージの最高学年が、そのステージのリーダーとして活躍する機会がある。
- ・施設一体型の義務教育学校のため、異学年交流が数多く行われ、上級生と下級生のつながりが強くなっており、上級生は下級生に優しく指導し、下級生は上級生を手本としてお互いに成長しながらの学校生活を送られている。特に1年生は、2年生～9年生までの各学年と交流を行っている。

- ・中1ギャップは、教科担任制や部活動の開始などが原因と考えられるため、東条学園では、5年生から、社会科、保健体育科、家庭科、外国語科については、教科担任制を導入している。（後期課程（従来の中学校）の教師が専門性を生かし、前期課程の児童を指導。）また、後期課程の部活動にも体験として参加することができる。そのほか、制服の着用や学園会（生徒会のようなもの）活動を実施。

イ 主な質疑

- Q：9学年もいると、各学年の帰宅時間が異なると思うが、スクールバスはどのように対応しているのか。また、運行は委託と市単独どちらで行っているのか。
- A：半径2kmに地区公民館がある場合は徒歩通学、それ以外がスクールバスで通学している。また、中学生に当たる7年生～9年生は全員自転車通学となっている。学園には、4台のスクールバスがあるが、1台は購入（市町村振興宝くじの収益金）、残り3台はリースで契約しており、運行は全て委託で行っている。また、交付税で1台600万円ほど返ってくるかたちになっている。
- Q：現在、運転手の人材不足が各種報道でもなされているが、運転手の確保対策は何か行っているか。
- A：バスの運行会社に事前に要望し、できるだけ確保してもらうようにしているのみである。
- また、今後、社地区と滝野地区でも小中一貫校を開校予定だが、社地区で12台、滝野地区で5台のスクールバスを運行予定。
- Q：他市から引っ越して東条学園に入学する児童・生徒はいたか。
- A：何人かいる。例えば、隣の三田市から住居を加東市に購入したいから、入学させてほしいという家族もいた。
- Q：制服の着用が5年生からということだが、学園制度になってから行ったのか。
- A：中学1年生に当たる7年生から実施するか、ステージ制を生かして5年生から実施するかを協議してきた。開校1年前に、制服については事業者へ相談していた。
- Q：制服をなくしているという学校も多いが、私服通学は検討したのか。また、地域から私服という声は上がらなかったのか。

A：公私を分けるという考えから、制服制度を導入し、私服通学については考えていない。また、兵庫県内は制服が多いため、地域からの声も特になかった。

Q：小・中学校の先生として、教員免許取得者同士の交流はあるか。

A：交流は多い。小学校の免許を持っている先生が、7年生（中学1年生）のクラス担任をしているという事例もある。

Q：5・6年生が部活動に参加することはできるのか。

A：長期休暇中に体験したり、普段のクラブ活動の時間に部活動に参加することもできる。

Q：部活動の外部指導者の活用状況はどれくらいか。

A：令和6年度は、女子バスケットボール部、女子バドミントン部で外部指導者を呼んでいる。

Q：9学年いるが、給食は全学年同じメニューなのか。

A：全学年同じメニューで、量を変えている。

○兵庫県加古川市（5月14日）

1 あいさつ

- (1) 兵庫県加古川市議会 小林 直樹 議長
- (2) 秦野市議会文教福祉常任委員会 福森 真司 委員長
- (3) 秦野市議会文教福祉常任委員会 間地 薫 副委員長

2 調査項目

(1) 見守りサービスについて

説明者 高齢者・地域福祉課 白井 伸昌 地域包括ケア担当副課長
〃 健やか長寿係 春日 淳子 係長
〃 高齢者福祉係 石原 雅和 係長

ア 事業概要

- ・高齢者の見守りサービスとしては、6事業（加古川市地域見守り活動に関する協定、認知症高齢者等の見守りサービス（見守りタグ）、緊急通報システム、認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク、高齢者実態調査、どないや訪問）がある。
- ・加古川市地域見守り活動に関する協定は、事業者からの提案で締結し、現在は35事業者に協力してもらっている。取組内容としては、日常業務の範囲において、見守り活動を実施し、異変を察知した場合は、担当課に情報提供してもらう形となっている。
- ・緊急通報システムについては、1人の利用者につき近隣協力員3人の確保としているが、現在は3人確保することが難しくなっている。
- ・どないや訪問は、老人クラブ連合会が一人暮らし高齢者等への訪問活動を実施している。
- ・見守りタグは発信機となっており、街中に設置されている約1,400台の見守りカメラ付近を通過すると、通過履歴を知らせてくれるもので、認知症により行方不明のおそれがある高齢者等の安全を確保するほか、高齢者の家族等の身体的・精神的負担の軽減を図ることを目的としている。
- ・見守りタグを無料で利用できる対象者は、加古川市認知症高齢者等の見守り・SOSネットワークに事前登録している人のほか、日常生活自立度判定基準のランクがⅡ以上である人、認知症の症状があると認められた人となっており、所得制限はない。

- ・現在、見守りタグは3社に提供してもらっていて、サイズや重さ等の特徴が3社で異なっている。
- ・見守りタグの登録者は、令和5年度末現在で228人で、継続登録者数は増加しているが、新規登録者は前年と比較して減少している。
- ・年度末に利用者に対して行ったアンケート結果より、普段から相談している人（地域包括支援センターの職員や担当ケアマネジャー）に勧められると、利用に結びつきやすいことが読み取れる。
- ・また、行方不明のときに見守りタグを活用して発見できた割合は約4割であったが、タグにはGPS機能はついていないため、カメラの付近を通過しないと分からないことも懸念事項である。
- ・見守りタグを利用する上での苦勞としては、本人に携帯させるために家族が様々な工夫をしていることも分かった。

イ 主な質疑

Q：加古川市地域見守り活動に関する協定について、一般家庭等からの情報提供にはどのように対応しているか。

A：情報提供専用ダイヤルを設けているため、どなたでも連絡してもらえる。

Q：利用者家族からの声で一番多いものはどのようなものか。

A：見守りタグを利用して家族を見つけることができよかつたという声がある一方、地域によっては見守りカメラの数が少ないので拡充してほしいという声もある。

なお、デジタル改革推進課では、見守りボランティアについて周知しており、これは専用アプリをスマートフォン等に入れて、「見守り中」とボタンを押すだけで、自分が見守りタグの検知機となることができる。

Q：見守りタグの耐用性や周知はどのように行っているか。

A：壊れたという話は聞いていないが、電池交換は1年に1回行う必要があるという課題がある。

また、周知については、担当ケアマネジャー等から行ってもらっている。

Q：行方不明になった際にどのように探すのか。

A：見守りタグにIDがあるため、そのIDを紐づけして管理し、専

用アプリを家族が見て確認している。家族が動けない場合は、家族が地域包括支援センターや警察に相談している。

Q：秦野市では、行方不明者がいる際に防災行政無線を流しているがそのような放送は行っているか。

A：行っていない。

Q：見守りタグにGPS機能はついていないとのことだが、機能を付けることは難しいのか。

A：民間事業者の中ではそういうものもあるが、市としては導入していない。

Q：地域包括支援センターの拠点はいくつあるか。また委託をしているか。

A：市内に6か所あり、全て委託している。

Q：見守りカメラには、〇〇カメラ作動中とか書いているのか。

A：書いている。

ウ その他

加古川市では、見守りサービスの視察後に加古川駅周辺に見守りカメラを見に行った。

また、視察内容とは別に、加古川駅前にある加古川駅南子育てプラザも見学させていただいた。

○静岡県島田市（5月15日）

1 あいさつ

- (1) 島田市こども家庭センター 子育て応援課 永田 智行 課長
- (2) 秦野市議会文教福祉常任委員会 福森 真司 委員長
- (3) 秦野市議会文教福祉常任委員会 間地 薫 副委員長

2 調査項目

- (1) 島田市こども館について

説明者 こども館 三浦 誉子 館長

子育て応援課 永田 智行 課長

〃 杉山 佳美 課長補佐兼係長

ア 事業概要

- ・施設建設に至った経緯は、中央児童センターの老朽化により中心市街地交流拠点施設を建設する際に、児童館（機能のある施設）を新たに移転・設置することとなった。
- ・現在は、1階にスーパー（令和6年3月末で閉店）、2階と3階に図書館、4階にこども館、5階～10階はマンションとなっている。
- ・こども館の開館時間は、午前10時～午後7時で休館日は月曜日。プレイルーム「ぼるね」のほか、活動室、一時託児室、ファミリー・サポート・センター事務局がある。
- ・利用状況は平成24年の146,549人をピークに減少していたが、新型コロナウイルスが落ち着いた令和4年から少し回復し、5年には84,624人となった。
- ・駐車場は、施設の駐車場（有料）75台を図書館の利用者と共同で利用するほか、駅前のため近隣にも有料駐車場がある。
- ・こども館の遊具は、屋内で体の動かすことのできる遊具を念頭に検討し、安全性も高く親子で一緒に楽しめ、デンマークの最新体育理論に基づいて開発された大型運動遊具のあるボーネルンド社の製品を選定。
- ・指定管理料として年間3,000万円かかり、業務内容としては、プレイルーム・活動室の管理運営、こども館の施設・設備の維持管理等を行っている。なお、一時託児所運営業務とファミリー・サポート・センター運営業務も別で委託している。

- ・こども館の人員は8人で、全員保育士、教諭、子育て支援員等の資格を保有している。また、休日・夏休み等の繁忙期には、臨時職員を配置している。
- ・建設費は、施設全体の総事業費が17億1,200万円で、事業主体・国で1/3、県・市で1/6負担した。

イ 主な質疑

- Q：スタッフ全員が保育士の資格を有しているが、看護師も常勤でいるのか。また怪我等の緊急時の対応はどうしているのか。
- A：看護師は常駐していないが、島田市の医療センターや近隣の病院と連携している。また、職員は年1回AEDや応急講習を受けているほか、衛生訓練（嘔吐、失禁等）を実施している。月1回避難訓練も実施している。
- Q：学生ボランティアもいるとのことだが、どこかの学校と連携しているのか。
- A：県内大学に募集をかけている。新型コロナで途切れているが、近隣の保育系大学の学生が、こども館に見学・体験できる機会の確保もしている。この声掛けは、焼津市の静岡福祉大学にしている。
- Q：利用保護者は母親が多いのか。また、団体での利用はあるか。
- A：父親が休日に子どもを連れてくることも多く、祖父母も一緒に遊びに来ることもある。団体利用については、大人1人に対して未就学の子3人までという決まりがあるため、この条件を満たすのであれば団体利用も可能である。
- Q：遊具の破損時の対応はどのようにしているか。
- A：2時間ごとの入れ替え制で時間を設けているため、入れ替えの間に30分の時間を設け、消毒や破損等の確認をしている。
- 動かせる遊具の場合は、破損を確認した際に事務局へ動かして修繕している。年2回ボーネルンド社が点検を実施しているが、軽微な修繕についてはスタッフが対応している。
- また、赤ちゃんが使用する遊具は消毒や破損等の確認を行うため、交代制で使用している。

Q：放課後デイサービス等の利用にはどのように対応しているか。

A：年1回休館日（8月）を別に設け、特別支援学校専用のこども館利用としている。午前中は肢体不自由の人専用、午後は知的障害等の人専用と分けて利用してもらっている。